

平成 31 年度

国庫補助金 重要文化財美術工芸品「広島県草戸千軒町遺跡出土品」修理事業概要

1 文化財の名称

重要文化財「広島県草戸千軒町遺跡出土品」(所有者：広島県)

平成 16 年 6 月 8 日指定

2 事業目的・内容

広島県福山市の芦田川の河口で見つかった、鎌倉時代から室町時代にかけて営まれた港町「草戸千軒町遺跡」から出土した考古資料のうち、重要文化財に指定された 2,930 点について、保存と活用を図るために、特に傷みのある資料から、保存修理を行う。

3 全体の事業期間

平成 31 年度は、第Ⅲ期 5 か年計画（修理資料 29 点）の 5 年目に当たる。

今年度は、平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月にかけて、木製品 3 点、金属製品 3 点、漆器 1 点、石製品 1 点の保存修理を行う。

4 本年度総事業費及び交付決定金額

(1) 収入の部

(2) 支出の部

| 区 分 | 金 額 | 備考 | 区 分 | 金 額 | 備考 |
|-------------|----------------|----|-------------------------------|------------------|----|
| 所 有 者 負 担 額 | 円 1,216,000 | | (項) 修理費 (目) 委託料 | 円 2,311,222 | |
| 国 庫 補 助 額 | 1,216,000 | | (項) 事務費 (目) 旅 費 (目) 需用費 | 119,400 1,368 | |
| 合 計 | 2,432,000 | | 合 計 | 2,432,000 | |

5 本年度の修理内容の概要

(1)籠（指定番号 籠1〔管理番号 25W00082〕）

長さ 52.4 cm, 幅 32.9 cm の木製の籠で、竹ひごを網代編みしており、一部に桜皮が残る。発掘調査時に周囲の土と一緒に取り上げ、最下に布を敷いた状態でコンテナに入れ PEG（ポリエチレングリコール）水溶液に浸け、そのまま乾燥させている。本体は非常に脆弱で、繊維が浮いている部分が多い。

昨年度から引き続き、表面のクリーニングを行い、遊離している細片を本体から取り外すとともに、周囲の布と表面の余分な PEG を除去する。来年度に、表面の補填・強化、コンテナからの取り外し、資料を固定する支持台の作製などを行う予定である。



修理前の状況



クリーニング後の状況

(2)陽物（指定番号 形代 42〔管理番号 27W00017〕）

長さ 19.4 cm, 径 4.2 cm の木製の形代である。昭和 62 年に保存処理を行っているが、経年劣化によって PEG が溶けて表面が若干湿り、補填部にも色落ちが見られたため、再度保存処理を行った。

修理では、亀裂部を樹脂によって再補填し、PEG の再含浸を行う。仕上げに彩色と表面処理を行う。



修理前の状況



PEG 含浸の状況

(3)つちのこ (指定番号 編具5 [管理番号 27W1178])

長さ 15.8 cm, 幅 5.4 cmの木製の編具である。平成4年に当館で PEG は含浸されていたが, 表面処理は行われていなかった。

修理では, エタノール水溶液で表面処理を行い, 亀裂部を樹脂によって補填し, 彩色する。



修理前の状況



亀裂部に樹脂を補填した状況

(4)漆皿 (指定番号 皿4 [管理番号 10L00010])

口径 9.3 cm, 高さ 1.8 cmの漆皿で, ほぼ完形だが接合していない細片もある。内面は赤漆, 外面は黒漆が塗布されている。平成13年度に保存処理を行っているが, 経年劣化によって漆膜が剥落する危険性があった。

今回の保存処理では, クリーニングを行った後, 亀裂部を樹脂によって補填し, ^{うきぎにかわ} 兎膠を塗布して漆膜の剥落を抑える。資料を固定する支持台も作製する。



修理前の状況



亀裂部に樹脂を補填した状況

(5)小札 (指定番号 甲冑部品 11 [管理番号 43M00006])

長さ 6.3 cm, 幅 2.6 cm の鉄製の小札である。紐を通す孔が 14 か所あり, 孔の周囲に微細な黒い膜 (漆?) が確認できる。平成 9 年度に当館で脱塩処理・樹脂含浸処理を行っているが, 経年劣化により微細な亀裂が生じていた。

今回の保存処理では, 改めて脱塩処理を行った後, 樹脂を含浸して補強する。資料を固定する支持台も作製する。



修理前の状況



脱塩処理後の状況

(6)口金 (指定番号 刀装具 3 [管理番号 06M00012])

長さ 4.3 cm, 幅 2.0 cm の銅製の刀装具である。状態は良いが, 端部に破損しやすい箇所がいくつかあった。

今回の保存処理では, 防錆処理・樹脂含浸処理によって強化する。資料を固定する支持台も作製する。



修理前の状況



防錆処理後の状況

(7)五輪塔水輪 (指定番号 石塔 31 [管理番号 32Q00363])

最大径 24.2cm, 高さ 18.0cm の角礫凝灰岩の五輪塔水輪である。風化によって亀裂が生じ、このままだと石の表面が徐々に剥落する危険性があった。

今回の保存処理では、付着していた泥等を除去し、石質強化剤を含浸する。



修理前の状況



保存修理検討会の状況

(8) ^{とうす}刀子 (指定番号 刀子 13 [管理番号 42M00018])

長さ 17.7cm, 幅 2.2cm の鉄製の刀子である。平成 29 年度に元興寺文化財研究所で保存処理を行っている。今回は、資料を固定する支持台を作製する。



現在の状況



支持台作製の検討状況



本事業は、文化庁美術工芸品重要文化財修理事業国庫補助金の交付を受けて実施されています。
Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2019